

治療と癒しの コラボレーションをめざして

都心の一等地、ハイソなイメージをまとった街、東京・六本木。

“都心の上質な日常”をコンセプトに昨春オープンした東京ミッドタウンを眼前に、米澤伸子先生の「リフレッシュボディ」があります。

室内に一步足を踏み入ると、そこには周囲のざわめきとは隔絶した落ち着いた空間が広がっていました。オープンして約半年、これから本格始動という米澤先生に話を伺いました。

米澤伸子先生

森ノ宮医療学園専門学校
第28期昼間部鍼灸学科卒業

少女時代は祖父から鍼治療を

私は高校生までテニス一筋のテニス少女だったので、肘や脚、腰のケガはもう日常茶飯事。実家は四国・香川で、祖父、父と鍼灸院を営んでいましたので、よく鍼や灸で治療してもらっていました。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、父も大阪鍼灸（現 森ノ宮医療学園）専門学校第7期卒業です。

「手に職」から鍼灸師を

高校2年生の時、1年間高校を休学してカナダに留学しました。田舎の地元の高校だったので大変でしたが、語学力は確実につきましたね。

帰国後1年遅れて高校を卒業したんですが、向こうの大学で勉強したくて、再びカナダに渡って2年間短大で商業ビジネスを勉強しました。で、就職ということになるんですが、現実は、英語ができて、少しビジネスの知識がある程度では非常に難しいわけです。それで手に職をと考えて、身近に感じていた鍼灸師を選んだんです。

鍼灸技術は父の治療院で習得

森ノ宮医療学園専門学校を卒業して2年間、香川の父の鍼灸院を手伝っていました。患者さんには申し訳なかったなあと思いますが、実地で鍼灸のスキルアップをしたという感じ

ですね。診療は朝の8時半から始まるのですが、その前から患者さんは待ちかまえておられるんです。とくにおじいちゃん、おばあちゃん方にとって鍼灸は生活の一部、日課と言ってもいいくらいで、大体毎日60～80人くらいが来られます。皆さん気がよい方ばかりで少々痛くても文句は言われぬ。免許を取ったばかりの若葉マーク鍼灸師としては本当に勉強になりました。

自分らしさを追求したい

なぜ、香川から東京へ？とよく聞かれるんですが、実は母の実家が田園調布にあって、小さい頃から親しんでいたもので、抵抗はまったくない